

006 うさお

今回は読書リストは休もうと思ったのに、「ご近所トマソン隊」を載せっちゃったからね）書くんだってさ。憶えているかなあ、本の中身。どうも本の題名って憶えられなくて、二度借り、三度借りをしちゃうんだよね。兄貴もそう言う傾向があるらしく、この前、泡坂妻夫の豪華本を二冊買っちゃったとかで、一冊送ってきました。豪華本って字が大きくて見易いなあ。



作品名	作家名	感想	評価
狂信者(上・下)	ロバート・ラドラム	いやあ、文句無しに面白い。007ものを見ているようで、一気に読み通してしまった。変幻自在の美貌の女が、夫を殺された復讐のためにアッサシンとなり、米国大統領たちを暗殺する。阻止するのは初老の退役軍人。この設定がちよいと気になるけどね。(年寄りが女にもてたり、強い訳ないだろう)	☆☆☆☆☆ ラドラムの題名はいつも借りる気をなくすよ!
ブレード・マン	菊池秀行	いやあ、文句無しに面白くないぞう。現代に生きる剣士たちが、荒唐無稽に立ち回る。読めなかったよ。最後まで。	☆
一匹狼の唄(上・下)	梶山季之	いやあ、古い、古い文体だなあ。それにこれでこの時代の主人公って自信満々なんだろう。それにお金持ちで、ハンサムで、腕っぷしが強いんだと。けっ。	☆
「ガロ」編集長	長井勝一	白土三平論は共感する。ほとんどを読んで持っていた自分に驚く。でも引越してあれらの本はどこに行ったのだろう。無くなって無いといいのだが、貸本屋の本も頼んで売ってもらったものだけに、心配だ。	☆☆☆☆ 漫画を描いていた頃の自分が懐かしい
おやすみ、夢なき子	赤川次郎	はてな?あんまり面白く無くなってきたぞ。読めることは1時間で読めるんだけどね。夢を見たことない主婦たちが、なぜ夢を失ったの、そこに纏わる殺人は?	☆☆
死因	パトリア・コーンウェル	女検死局長が運び込まれた死体から推理する、本当の死の原因。「きらきらひかる」のことがふと浮かぶが、この局長、スカリーのほうがイメージがダブルかな。結構、妻子ある男性と寝っちゃたりするんだよ!	☆☆☆☆
銀の檻を溶かして	高里椎奈	読まなかった。すまん。二~三ページ読んだら、読めなかったんだよう。	☆ 読まないのに ☆一つ
震源	真保裕一	ああ、これ以前に借りて読んだ奴だ。読んだ時はそれなりに面白かったけど。なんで判らないかあ。「ホワイトアウト」借りたいなあ。でも図書館に無いぞ。	☆☆☆☆
自分の人事は自分で決める	浅川純	サラリーマンとして、結構共感を覚える。少し溜飲が下がる思いもするのは、同じような経験をしているからか。	☆☆☆
証拠死体	パトリア・コーンウェル	女検死局長もののアナザーワン。二冊続けて読むと少し草臥れるな。翻訳物は。名前が良く覚えられないしね。超美人のFBIの姪が出て来ると、この女主人公もとてつもなく奇麗なのかなって思っちゃう。そんな記述は無いけどね。	☆☆☆ ちよいと草臥れたからね。